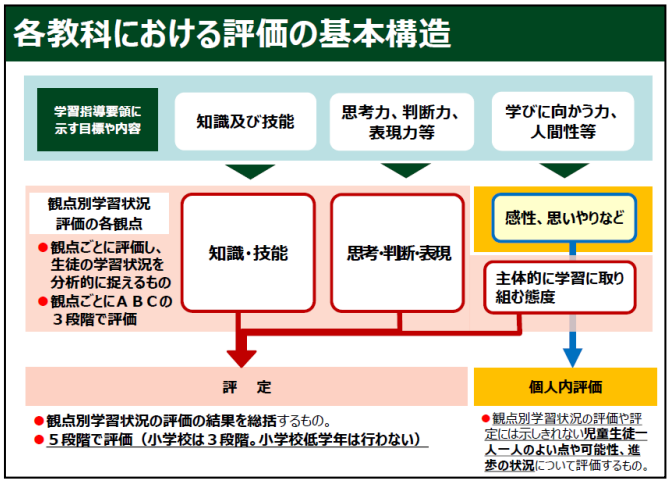
評価計画及び観点別学習状況の評価の評定への総括方法

1　はじめに

観点別学習状況の評価は、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を分析的に評価し、各教科の評定を行う際に基本的な要素となるものである。それに対して、評定は、学習指導要領に示す各教科の目標に照らして学習の実現状況を総括的に評価するものである。

観点別学習状況の評価の観点や評価の基本構造を抑え，適切な評価をしていく。



（参考資料　文部科学省「児童生徒の学校評価の在り方について」）

2．評価計画

・日々の授業におけるワークシート及び成果物、授業態度等、単元終了ごとにワークテストを行い３観点ごとに評価を蓄積し、学期ごとの観点別学習状況の評価の総括を整理する。

	知識・技能	思　考・判　断・表現	主体的に学ぶ態度
１学期	A	B	A
２学期	B	B	B
３学期	A	B	C

3．学年末における観点ごとの総括および評定の方法

・各学期の評価が同じ場合は、総括も同じに評価する。（例ＢＢＢ→Ｂ）

・ＡＢＡのように、評価結果が同じでない場合は、出現率の高いものを重視しつつ、学年の目標、学年の評価の観点の趣旨と照らし合わせ、その実現状況を総括的に評価する。

・ＣＢＡのように評価結果が向上していった場合、ＡＢＣのように下降していった場合は、学習全体をとらえつつ、学年の目標、学年の観点の趣旨と照らし合わせ、その実現状況を総括的に評価する。

	知識・技能	思　考・判　断・表現	主体的に学ぶ態度
評　価	A	B	B

4．学期末における観点別学習状況の評価の総括をもとに評定する方法

・総括した３つの観点の評価が同一の場合は、評定も同じにする。例ＡＡＡ→３）

・総括した３つの観点の評価が同一でない場合は、出現率の高いものを重視しながら、学年の目標及び観点の趣旨に照らし合わせて実現状況を把握し、評定する。特に（ＣＣＢ）の評定については、学年で確認する。　＜評定への総括の例＞　Ａ＝３、Ｂ＝２、Ｃ＝１

各観点の年間の評価	素点の合計	要録の評定
Ａ　Ａ　Ａ　　Ａ　Ａ　Ｂ	８～９	**３**
※　「知識・技能」のみがＢの場合は、要録評定は２にするなど、教科観点に応じて配慮する。		
Ａ　Ａ　Ｃ　　Ａ　Ｂ　Ｂ Ａ　Ｂ　Ｃ　　Ｂ　Ｂ　Ｂ Ｂ　Ｂ　Ｃ	５～７	**２**
Ａ　Ｃ　Ｃ　　Ｂ　Ｃ　Ｃ Ｃ　Ｃ　Ｃ	３～５	**１**